



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
5/18 (月)	+ 1,300	▲ 1,200	+ 100	国庫短期証券発行償還 (3M)	国債補充供給 + 1,200		欧: G7財務省・中央銀行総裁会議
5/19 (火)	+ 500	▲ 27,500	▲ 27,000	国債発行 (5年)			日: GDP (1Q) 鉱工業生産 (3月)
5/20 (水)	+ 500	+ 5,000	+ 5,500	国庫短期証券発行償還 (1Y)			米: FOMC議事要旨 (4月29日開催分) 欧: ユーロ圏CPI (4月)
5/21 (木)	+ 500	▲ 6,000	▲ 5,500	国債発行 (20年)			日: 日銀、債券市場参加者会合 貿易収支 (4月)
5/22 (金)	+ 1,000	+ 5,000	+ 6,000				日: 日銀、債券市場参加者会合 全国CPI (4月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比7,200億円減少の453兆6,300億円から始まった。その後、国債発行や源泉税揚げにより増減し、15日は452兆2,900億円(速報)で越週した。
無担保コールON物加重平均金利は週初、0.726%から始まり、その後も概ね横ばいで推移した。
ターム物は1W~3W物0.725%~0.900%のレンジ、1M~3M物1.000%~1.220%のレンジで出合が見られた。
来週の予定は、国内では19日にGDP(1Q)の公表、22日に日銀の債券市場参加者会合の開催や全国CPI(4月)の公表、海外では18日にG7財務省・中央銀行総裁会議の開催、20日にFOMC議事要旨(4月29日開催分)の公表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	0.700 ~ 0.728
1M	0.78 ~ 0.90
2M	0.90 ~ 1.00
3M	0.95 ~ 1.10
6M	1.10 ~ 1.40

<レポ>

足許GCは週を通して0.75%~0.755%の狭いレンジでの出合いとなった。買入れオペや短国の発行等の影響もほとんど見られず、水準に変化はなかった。
SC取引は2年470~482回債、5年155~183回債、10年356~372、378~381回債、20年110~130回債、30年86~89回債などに引合いが見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.70台
CP 3M	0.9 ~ 1.1

<CP>

今週の入札発行総額は2兆1,450億円で、週間償還額の1兆5,405億円を大幅に上回った。発行残高は、先週末時点の23兆5,393億円から、5月14日時点で23兆4,324億円へと増加した。発行市場では、不動産業・電気機器・電気業をはじめとする幅広い業種で、大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは、a-1格相当の1か月物で0.7%台から0.9%程度、3ヶ月物で0.9%台から1.1%台と、幅広い水準での取引が確認された。

来週の償還額は、約1兆200億円となっている。発行市場は、月末週に向けて企業の調達ニーズが高まることから、相応の発行が見込まれる。発行レートは、日本銀行が改めて利上げの姿勢を示していることから、引き続き次回利上げの時期を見極めつつ、水準を探る展開となるだろう。

<TDB>

15日の3M(第1381回債)の入札は、最高落札利回り0.8803%(前回債0.8501%)、平均落札利回り0.8706%(前回債0.8416%)となった。
来週の入札は19日に1Y、22日に3Mが予定されている。

本資料は投資環境に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。